

# 本 編

平成 19 年度都市再生プロジェクト事業推進費

国際旅客船等の利用者増大に対応した  
広域的な港湾施設の計画・整備方策検討  
調査報告書

平成 20 年 3 月

国土交通省港湾局

# 目 次

1	調査概要	
1.1	調査目的	1-1
1.2	調査フロー	1-2
1.3	調査対象	1-3
1.4	国際旅客船等の定義	1-3
2	近畿地方における国際旅客船等の利用拡大に向けた検討	
2.1	近畿地方における国際旅客船等の現状把握	2-1
1)	大阪湾内に就航している定期貨客船の実態把握	2-1
2)	大阪湾に寄港したクルーズ船の実態把握	2-17
2.2	利用者・事業者等のニーズ等の把握	2-25
1)	利用者アンケート調査の実施	2-25
2)	船社ヒアリング調査の実施	2-49
3)	管理者ヒアリング調査の実施	2-58
2.3	利用者の特性分析	2-59
1)	定期貨客船利用者の特性分析	2-59
2)	クルーズ船利用者の特性分析	2-60
2.4	近畿地方における国際旅客船等の利用拡大に向けた施策の検討	2-68
3	九州地方における国際旅客船等の利用拡大に向けた検討	
3.1	旅客ターミナル利用に関する課題の抽出及び対応策の検討	3-1
1)	九州管内港湾における旅客ターミナルの現状の整理	3-1
2)	旅客ターミナル利用に関する課題の抽出	3-29
3)	旅客ターミナル利用に関する需要予測	3-42
4)	旅客ターミナル利用に関する対応策の検討	3-46
3.2	各港湾の役割分担に関する検討	3-48
1)	現状の対象港湾の役割整理	3-48
2)	役割分担のあり方の検討	3-50
3.3	九州地方における国際旅客船等の利用拡大に向けた施策の検討	3-54
1)	旅客ターミナル等の施設整備方針の検討	3-54
2)	具体的な取り組みと行動計画	3-56
4	沖縄地方における国際旅客船等の利用拡大に向けた検討	
4.1	沖縄地方におけるクルーズ船寄港状況と対象港湾の概況	4-1
1)	沖縄地方におけるクルーズ船寄港状況	4-1
2)	対象港湾の概況	4-8
4.2	対象港湾における課題の抽出	4-19
1)	平良港の課題	4-19
2)	石垣港の課題	4-48
4.3	沖縄地方における国際旅客船等の利用拡大に向けた方針の検討	4-61
1)	平良港における港湾施設高度化の方針	4-61
2)	石垣港における港湾施設高度化の方針	4-76
5	国際旅客船等の利用拡大に向けた総合的検討	
5.1	我が国における国際旅客船等の利用状況	5-1
5.2	国際旅客船等の利用に関する課題	5-15
5.3	国際旅客船等の利用者拡大に対応する港湾施設の高度化の方針	5-20
5.4	具体的な取り組みと行動計画	5-22

# 1 調査概要

## 1.1 調査目的

近年、外航定期客船、フェリー等を利用した訪日外国人数は増加傾向にあり、特にアジア諸国等の入国者の増加は予想を上回るスピードで急増している。また、上海・釜山・基隆・香港等を発着するアジアクルーズのクルーズ船の寄港も増加し、海外との玄関口としての港湾の役割は益々、重要になってきている。このような状況下、外航定期貨客船、クルーズ船等国際旅客船の利用者拡大への対応が遅れると、交流需要そのものを減退させてしまう恐れがあることから、国際旅客船利用者の利便性、快適性の向上を図る必要がある。

そこで、本調査は、国際旅客船の利用者拡大及び既存ストックを活用した港湾施設の高度化を図るため、各地域及び港湾の現状における課題の抽出をしたうえで、今後の国際旅客船等の利用者の拡大に向けたハード、ソフトの施策の検討・提案するものである。

なお、本調査は、近畿地方、九州地方、沖縄地方の3地域を対象として実施したが、各地域の調査の背景等は次のとおりである。

### ◆近畿地方

近畿地方の大阪港、神戸港に外航定期フェリーが就航し、韓国、中国からの旅客数は増加傾向にあり、また、同港はクルーズ船の発着、寄港地としての利用も多い。そこで、大阪湾を中心とした近畿への国際旅客船の利用者の拡大及び国際観光交流ネットワーク形成に向けたハード、ソフトの施策を検討し、提案した。

### ◆九州地方

九州地方の博多港、下関港には韓国、中国との定期客船、フェリーの航路が開設されており、近畿地方と同じく同地域からの旅客数は増加傾向にある。また、北九州港の門司港地区には平成20年から韓国(釜山)との間で定期フェリーが就航する予定となっており、更に、長崎港、鹿児島港等へ東アジアクルーズの外国船の寄港も増えており、今後、九州地方におけるアジア地域との交流需要は盛んになると予想される。そこで、九州地域の観光振興を促進するためにも、国際旅客船等の利用者拡大に対応した港湾施設の高度化を図り、九州での広域的な港湾施設の整備方針等の検討し、提案を行った

### ◆沖縄地方

沖縄地方の那覇港、平良港、石垣港においては台湾との間で定期フェリー及び定期クルーズ船が運航している。特に定期クルーズ船は、沖縄における外国人観光客の訪日手段としての役割は大きい。しかし、平良港、石垣港においては、風浪等の影響や自然環境保全等、離島であるための課題が多く、その問題解決が求められている。そこで、平良港及び石垣港の離島港湾としての課題解決等のための施策を検討し、提案を行った。

## 1.2 調査フロー

本調査のフローは以下のとおりである。

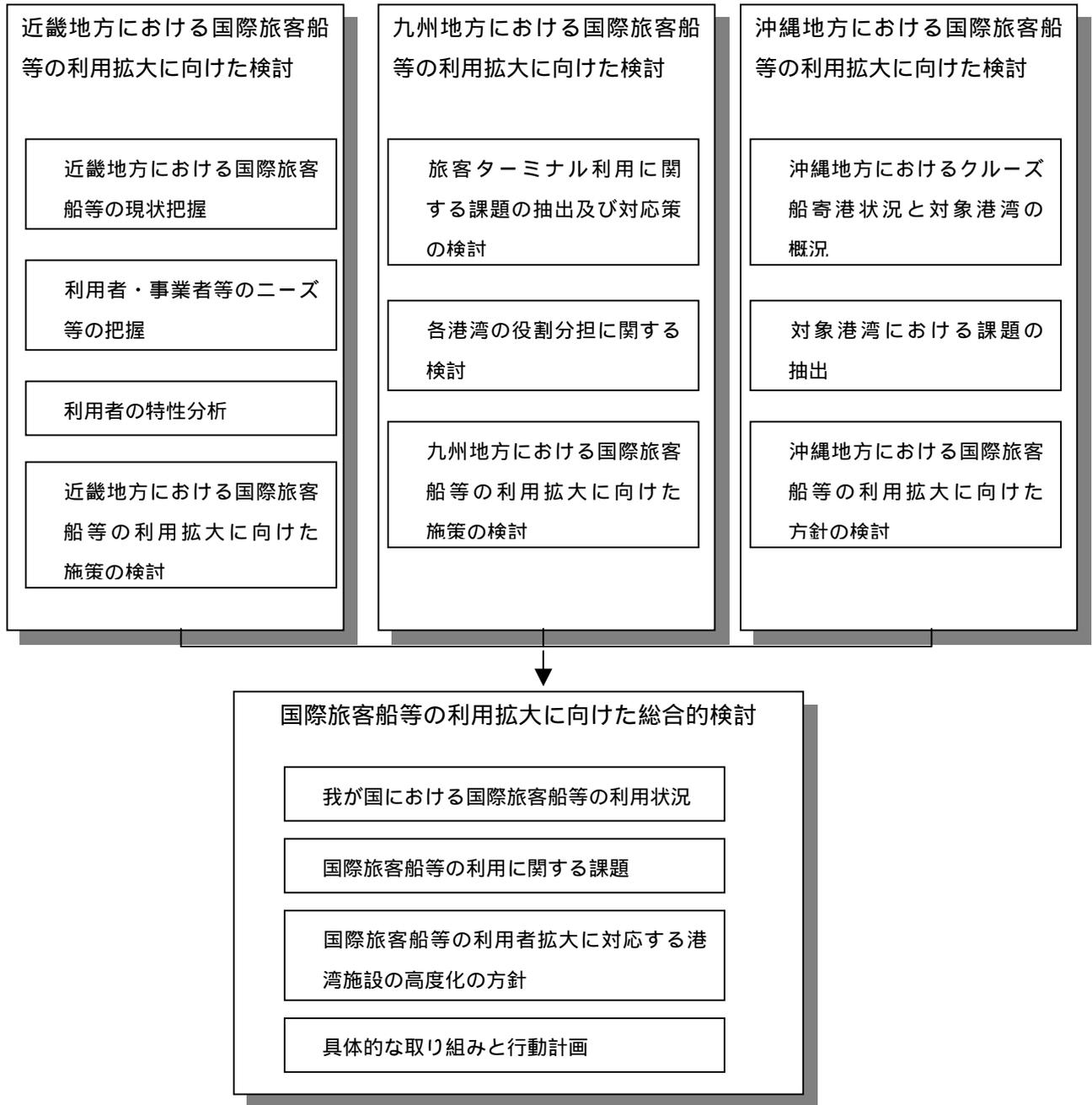


図 1-2 調査フロー

### 1.3 調査対象

調査の対象は、韓国、中国への外航定期客船、フェリー等が就航し、更にアジアクルーズのクルーズ船の寄港も増加している近畿地方、九州地方の港湾と、台湾との外航定期クルーズ船が運航している沖縄地方とする。

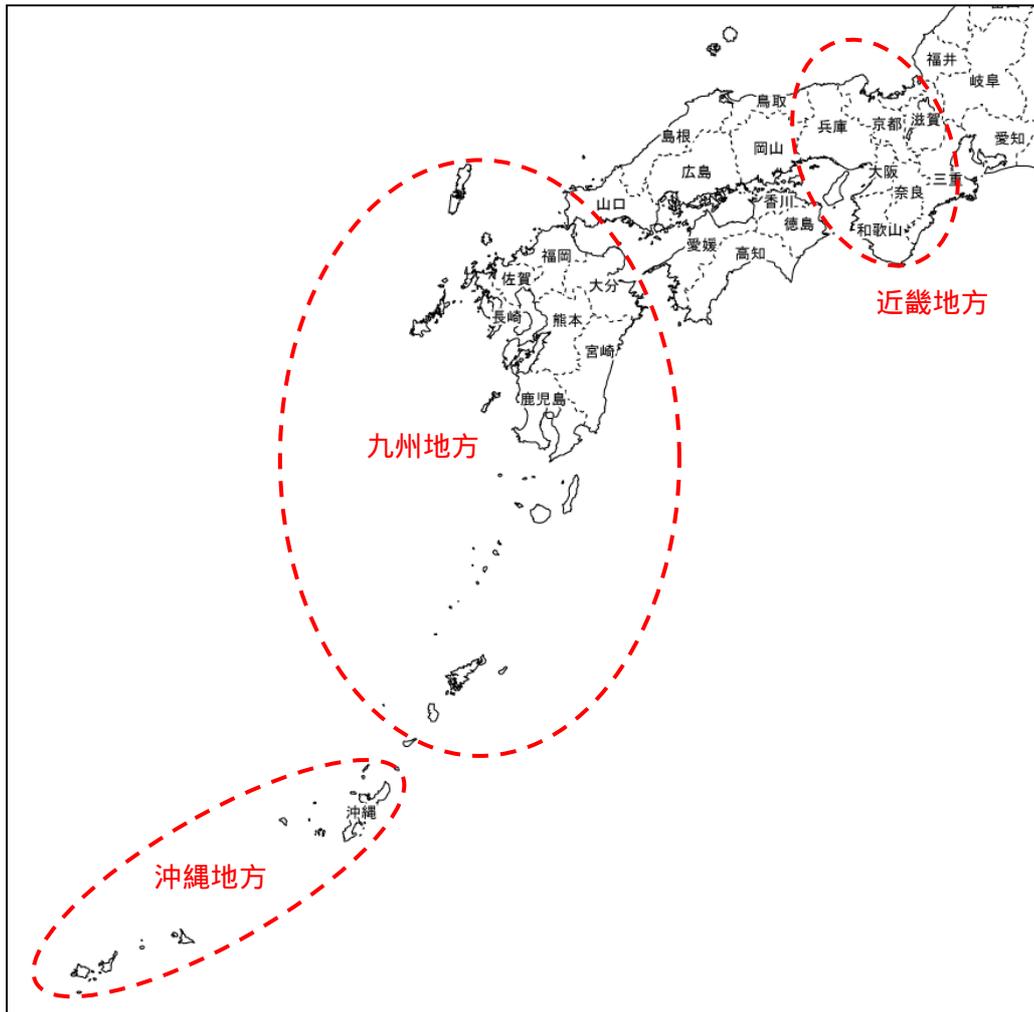


図 1-2 調査対象

### 1.4 国際旅客船の定義

本調査における国際旅客船とは、各地域の観光振興の一翼を担う旅客船、フェリーの外航定期貨客船とクルーズ客船とする。



写真 1-1 外航定期貨客船の例(左:ピートル 右:ゆうとぴあ)

写真 1-2 クルーズ客船の例  
(飛鳥)